

2020年7月10日

都倫研の皆様

東京都立白鷗高等学校

池田 仁

2020年度 都倫研 冬の読書会のご案内

表題の件について、下記のとおり次回の読書会をご案内いたします。

記

1 日時 2020年8月15日(土) 13時30分～14時50分

2 方法：テレビ会議サービス Zoom を用いる

3 テキスト：『現代現象学—経験から始める哲学入門』(植村・八重樫・吉川他著、新曜社)

4 内容紹介：「現象学は私たちの経験を探究する」という言葉で本書は始まります。フッサールに端を発する哲学の伝統である現象学的な思考の仕方を紹介しながら、真理・存在・価値・芸術・社会・人生といった哲学の主要な問題へと読者をいざないます。

「事象そのものへ」をスローガンとするフッサールの現象学は、「現象学的還元」や「ノエシス・ノエマ」、「超越論的主観性」等々の難解な用語もあいまって、直接原書を読むハードルが高く感じることもありえます。本書は、最先端の現象学研究者が「現象学的に考えるとはどういうことか」を、実際の私たちの経験に即してわかりやすく示したものです。実際にフッサールやハイデガー、メルロポンティらの著作に当たる前に好適の入門書といえます。第一部「基本編」では「現象学とは何か」についての叙述、第二部「応用編」では真理・存在・価値・芸術・社会・人生といった哲学の主要な問題をめぐって、現代現象学の立場から考察が行われます。

当日は報告者より、内容の概要と特筆すべき点について触れたうえで、フッサールやハイデガー、メルロポンティ、レヴィナスといった現象学的伝統に属する哲学者について、実際の授業で扱う際の導入の仕方や切り口についてご紹介できればと思います。

事前にご準備いただける先生方は、第一部「基本編」の全体と第二部「応用編」の「6-2 道徳」と「9-2 哲学者の生」をお読みください。「道徳」は、功利主義などの倫理の授業でよく扱われる内容と現象学的な倫理学との違いについて、「哲学者の生」は「エポケー」や「現象学的還元」といった(センター試験でも出題された)フッサールの方法について論じています。

以上